



## 【人生の嵐の真夜中を通る時】

聖書本文:マタイの福音書14章22-27節 / 暗唱聖句:マタイの福音書14章27節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。願わくは、今週一週間のうちにも、共におられる主がみなさんの御家庭と職場の上に豊かな哀れみと恵みで覆って下さいますように切にお祈り致します。愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！今年年明けてから、我らはみんなずっと幸いな一年として送れるように願ったら、思わぬ予想もしなかった大地震などで、耐えがたく胸が裂かれるような苦しみが襲って来る時もあるでしょう。今日の聖書本文のマタイの福音書14章22-27節には、気まぐれな天気のような人生を断片(だんぺん)的に表しているような場面が出ています。

## ＜本文＞

今日の聖書本文を見ると、イエス様の弟子たちは今湖の舟の中で激しい風浪(ふうろう)にもまれ、生死の岐路に立てられています。まったくこれからのすぐ先が見えず、見当がつかない恐怖と不安の中に置かれています。

ところが、彼らが死にそうなるような苦しみを目の前にする直前に、どんな出来事がありましたか。そうです。あの有名な五つのパンと魚二匹で男だけで5千人、女と子どもたち合わせて約2万人ほどの群衆が食べられても、12かごが残されるほど、一生忘れられない神の御子としてイエス様の素晴らしい奇跡を直接体験したばかりでした！

弟子たちは、そんなに驚くばかりの素晴らしい神の奇跡の直接体験をしたばかりなのに、今は急に状況が全く変わって生死の岐路に立っていて死にそうになっているのです。こんなローラーコースタのような人生ってあるでしょうか。しかし、振り返って見ると、実は、我らの人生もそのようではありませんか。ですから、今までものごとが順調である方がいれば、自慢しないで下さい。いつか嵐がやって来るか、いつ嵐が吹いてくるかわからないからでしょう。反対に、いまマタイの福音書の14章の弟子たちのように苦しみの中にいらっしゃる方やおぼれそうな苦しい時を通過しているような方がいるなら、決して絶望しないで下さい。いつそうしたかのようにかならず、神様の恵みによって追い風(順風;じゅんぷう)に乗せられ、ずっと目指す方向に進んで生ける素晴らしい神様の恵みを頂ける日が来るからです。そういうわけで旧約の伝道者の書にはこのような箇所があります。

**「順境の日には幸いを味わい逆境の日には考えよ。これもあれも、神のなさること。後のことを人に分かせないためである。」**  
(伝道者の書7章14節)

順境の日には神様に感謝し、苦しみの時はどうしてこんなことが起きたのか自分を顧みながら、これを通して神様が自分に何を望まれ、教えようとしてされているのかを真剣に考えなければなりません。神様はこの二つを平行(へいこう)させてくださることにより人が人生の先を知ることができないようにさせ、常に謙遜に神を信じ頼れるようにと伝道者の書は我らに教えて下さっています。もう一度本文に戻りましょう。

## ＜1.思わぬ荒波に悩まされた原因＞

今弟子たちは彼らが考えもなかった緊急事態、非常事態におわれています。今日の本文をもっと深く理解するために、まず、この出来事の原因提供者はだれなのか。を考えて見る必要があります。みなさんはイエス様の弟子たちが向かい風、思わぬ死の恐れ、激しい強風と嵐を受けて波に悩まされる状態になったのはなぜでしたか。ただの運が悪かったのでしょうか。仕方ない偶然だったのでしょうか。それとも急いでしまった弟子たちの過ちの結果でしたか、他の人たち群衆せいでしたか。聖書にはそのような状況にさせて下さったのがイエス様ご自身だと証言して下さいます。

今日の本文であるマタイの福音書14章22節を御一緒に読んでみましょう。

**「それからすぐ、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に向かわせ、その間に群衆を解散させられた。」**

イエス様は弟子たちをすぐに舟に乗り込ませたのです！

**みなさん！なぜ、イエス様がそのようにさせたのでしょうか。イエス様の深いご意図を知るためには、船に乗らせる前の状況がどうだったのか知る必要があります。弟子たちは五つのパンと二匹の魚の奇跡の現場で直接目撃したばかりでした。**群衆たちはイエス様のこの素晴らしい奇跡を体験してから、当然興奮状態だったはずでしょう。もうここでイエス様こそ、政治敵的なイスラエルの王様となれば、これからイスラエル民の何を食べるべきか、何を着るか一切心配なく、先ほどのようにイエス様が祈れば、必要な全てのもは何でも奇跡的に与えられ、満たされるはずだと！群衆たちにとって、あんな奇跡を起こさせて下さるイエス様はまるで自分たちの困っている全てを解決して下さいされるヒーローの存在としようとしたのではないのでしょうか。

**イエス様の奇跡を通して、大勢の群衆たちはイエス様こそ、これからイスラエル王になれる能力のある存在としての確信を持つことになったのに間違いありません。“イエス様を王にしよう！イエス様ならきっとこのローマの支配と圧制から、イスラエルを救ってくれる英雄に間違い！”と叫んだ人も多くいたかも知れません。**

もしも、イエス様が弟子たちをその奇跡の場から離れるように促さなかったならば、きっと弟子たちは群衆の爆発的な人気と反応に彼らも興奮しながら、そのままそこから離れようとしなかったはずです。

どれほど、群衆の前で、イエス様の弟子である自分たちの身分に自慢したかったのでしょうか。今まで経験の中で多分一番、群衆たちからの手応えのある反応を味わいつつ、楽しんでいたでしょう。多くの人々からの認め、賞賛と人気、これからイエス様の弟子である身分を通して、きっと弟子たちもこっそり期待していたイエス様がイスラエルの王様のような存在になることに彼らもそのムー

ドに乗ってしまったと思います。そのままになったら、イエスの弟子で経歴が、これから出世の保証とまると思い込んでいたと思います。それは決してイエスキリストが来られた目的の道のりからも外れてしまうことであり、呼んで下さったイエス様の弟子たちの生き方も全然ずれてしまうことになることにイエス様はそのままほっと置くことが出来ない状況であることをご存じだったでしょう。ですから、イエス様はしばらく弟子たちが群衆とともに、この興奮の場を満喫していた状況から、弟子たちを促し、その奇跡の場をすぐ離れさせて下さったのです！そして強いて舟に乗り込ませました！ここで、弟子たちをそうさせたイエス様の深い意図が見えるでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

世の人々の考えでは人々からの拍手や熱狂(ねつきょう)、認めが人生の真の成功だと思われるかも知れません。

ところが、イエス様の観点ではまったく違うことがわかります！！

弟子たちにとって何の助けにもならず、むしろ信仰の面においては、むしろ、危険だと思われたようです。弟子たちがこの奇跡の雰囲気心が奪われ、夢中になるよりも、嵐の中で自分たちの本当の姿がどうであるか直面させ、自分の弱さを認め、もっと信仰が強められ、しっかり保つことが出来るように、真の神様の力に謙遜に頼る経験をするのがもっと有益であるとイエス様は判断されたため、弟子たちをそのように導いたのではありませんか。そういうわけで弟子たちは彼らが波に悩まされることを御存知ながらも、奇跡の現場から離れさせ、舟に乗り込ませ、イエス様は彼らのために祈られたわけでありませう。

しかし、今日の**マタイの福音書14章**を黙想しながらなかなか理解できなかった二つの疑問がありました。

それはなぜ、イエス様は弟子たちの苦しみはすぐ答え風をやませ、波をすぐ静められなかったのでしょうか。

そして、どうして、弟子たちはイエス様のお言葉の通りに従ったのに、苦痛と苦しみを受けなければならなかったのか。

この質問は、我々の実際の信仰の生活の中でいつでもありうることであり、みなさんとも関係のある質問だと思われる。

### <2. イエス様はなぜすぐ耐えがたい苦しみの波を落ち着かせなかったのか>

弟子たちはイエス様に従って舟に乗ったのに、まず、このような状況を許されたイエス様について先に考えたいのは、イエス様がわざと、弟子たちを苦しみの場に導いたならば、どうして、弟子たちを早く助けて下さらなかったのでしょうか。

しかし、イエス様が苦しんでいた弟子たちに現れたのはいつだったのでしょうか。本文の**25節**をもう一度見て見ましょう。

「夜明けが近づいたころ(新改訳3版では「夜中の3時ごろ」)」だったと書かれています。

弟子たちがいつから波に追われていたのか学者たちによって意見がちよっと違いますが、**ヨハネの福音書6章16節**によると、「夕方になって、弟子たちは湖畔(こはん)に降りて行った。」書いているので、おそらく、イエス様の弟子たちは(マタイ14:15-夕方)の時間(午後4-5時ごろ)になったので、パン五つと魚二匹で2万人ほどの人々を食べさせ、かごを集めさせ、その後(夜7-8時)からなので、そく船に乗ったことを考えられる)その後、舟に乗って、夜9~10時以後から風がふき始めたのではないかという見解(けんかい)が多いです。そして、弟子たちはすくなくとも、夜中3時まで、約4~5時間ほど嵐に襲われていたはずでしょう。

愛するみなさん！イエス様はどうしてもっとはやく弟子たちの方に来られ、助けて下さらず、早く来られなかったのでしょうか。

もっと不思議なのは、イエス様はその光景をずっと見ておられたということです。**マルコの福音書6章48節**によると、イエス様は弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になっておられたことが分かります。

「イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明け(夜中の三時ごろ)が近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。」

そして、イエス様は今弟子たちが嵐と向かい風の中でもてあまし、力を出し切っても問題解決が出来ず、おぼれそうに、死にそうになっているその時までずっと見つめておられたのです。

愛する信仰の家族のみなさん！耐えがたい苦しみの中に置かれ、もう死にそうになっている危険な状況の弟子たちだったのに、イエス様はしばらく、そうしてずっと見ておられたのが、みなさんは理解できるでしょうか。

実は、私たちの人生の中でも、まったく思わぬ苦しみの中を通る時、イエス様はまるで、傍観(ぼうかん)的な態度を取り、わたしをほったらかしていらっしゃるように思われる時はなかったでしょうか。まるで、神様が自分の苦しみに対して、ずっと沈黙されているように感じる時が今まで時々なかったでしょうか。

仕事のために、家族のために、子供の為に、進路や進学のために、結婚のために、健康のためになどなど、さまざまな悩みと苦しみの課題を持った時、一生懸命に自分のすべての力を出し切ったのに、イエス様はまったく助けて下さらないように感じてしまう時はなかったでしょうか。

多くの場合、祈っても祈ってもなぜか神様がすぐ答えて下さらないような時がなかったでしょうか。なぜでしょうか。

### <3. 我らの為に、夜中3時にまで待っておられるイエス・キリスト>

みなさん、どうしてイエス様は死にそうになっている弟子たちの姿をすべてご覧になり、大変な状況をご存じだったのにも関わらず、速く助け、救って下さらなかったのでしょうか。どうして夜明けになるまで、詳しく夜中3時ごろになって、ようやく弟子たちに歩いて来られたのでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさん！よく考えて見て下さい。

イエス様の多くの弟子たちの本来の仕事は何でしたか。そうです。漁師でした！

前職(ぜんしょく)ガリラヤ湖が本場だった漁師出身だった弟子たちが今舟に乗っていたので、別にイエス様がいなくても、ペテロはじめ、多くの弟子たちがよく慣れていたこのガリラヤ湖で、よくなっていた船に乗って渡ることは、目をつぶっても、簡単に！らくらくに！たやすくできそうな、そんなことは朝飯(あさめし)前だ！と思い込んでいたでしょう。

別に船に乗ったころ、黒雲(くろくも)が空を覆って、風が吹き始めても、弟子たちは驚くこともなく、自信満々だったでしょう。今まで十分な経験があり、自信がありました！船に乗る時から、もし向かい風と嵐の危険な状況だったら、漁師の出身だった弟子たちは初めから乗らなかつたはずでしょう。おそらく、弟子たちは漁師出身だったので、長年徹夜しながらも漕ぎ出し魚を取ったり、釣ったことがあるので、別に夜船に乗るのも、平気で、ノーハウも対応の方法も十分分かっていたと思います。‘今のぐらいなら、問題ないじゃん！イエス様がなくても、大丈夫だって！おれも任せろ’自分たちの経験、力、知識、実力で、達人(たつじん)のような余裕を持っていたと思われまふ。さらに先ほどの奇跡の主人公イエス様の弟子たちの身分だから！という興奮状態と自信満々な気持ちもあつたかも知れまふ。

ところが、夜9時が過ぎると、だんだん向かい風も急激に強くなり、波が激しくなり始めまふ。湖を渡ることは、自分たちにとって**朝飯(あさめし)前だ！**と余裕持って、油断していた弟子たちが焦り始め、心配しながらでも、まだ何とかあるだろうと自分たちの経験を全部生かして、こんな時は帆(ほ)をあちの方向にすれば良いとか、いやこちの方に曲げるべきとか議論しながらでも我慢しつつ、進もうとしていたのではないのでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさん！**もしも、まだそのような時に、イエス様が弟子たちに来られて、以前イエス様がなされたように**“波よ！静まれ(マルコ4:39節)”と命じて突風(とつふう)や荒波を静まさせて下さつたならば、弟子たちはどう受け止め、反応したと思われまふか。

おそらく“あ～イエス様、このぐらいはおれたちで、全然解決できたのに、余計なことをなさいましたね！俺たちの実力を信頼しないですか。僕らに任せてくださいよ！”という反応を見せたかも知れまふ。

ところが、時間が経てば経つほど、むかい風が強くなって来まふ。もう舟の舵(かじ)も聞きまふ。船の揺れが激しく、すぐでも荒波が船を食い尽くそうとし、小舟を沈ませようとする状況で、もう諦めるしかない時が、夜中3時ごろだつたわけでありまふ。もうこれ以上自分たちの他の経験も、技術も、方法も聞かない死の帰路に立っている状態の夜中3時ごろだつたのです。“もう駄目だと、これで死ぬのか。ここで終わりなのか。”

そうなつた時、弟子たちの反応はどうなつたとみなさん思ひまふか。

ようやく、この船にイエス様が一緒にいらつしやらないことに気づいたのではありまふせんか。“どうか、イエス様！！我らを助けて下さい！どうか、どうか、我らを救ってください！どうか神様あわれんで下さい！”と叫んでいた時でした。

**自分たちがイエス様の弟子として持っていた信仰というものが、どれほど、弱いもので、限界のあるものなのか、心から本気で、真剣に、命をかけて、全てを尽きて、イエス様を信じ頼り求めるしかなつたのではありまふせんか。**

**\* 真夜中の3時＝自分の弱さ、罪深さ、限界を認めつつ、神様を絶対信じ、神の救い、御助け、解決も求めるその時間でしよう。**

愛する信仰の家族のみなさん！

今日の御言葉はただの時間的な真夜中の3時を言っているのではありまふせん。神様の時間で霊的な深い夜中3時というタイミングにもなるでしょう。その霊的な真夜中の3時というのはいつでしょうか。我々の人生においても、いつ、どんな時が夜中の3時ごろでしょうか。自身の努力、自分のノウハウ、経験、知識など、自分のすべての力でも、出来ず、人の力でどうしようもできない両手あげのその時！それで、人の限界、弱さ、みじめさをようやく神の御前で、正直に認めながら、心から主イエスキリストのみに頼りて、神の救いを絶対信じ、求める時になつたその時が、夜中の3時だと信じまふ。

**実は、イエス様が丘の上で嵐に襲われている弟子たちを3時になるまで、眺めておられた理由は、彼らをただ困らせるためではありまふせんでした。イエス様は弟子たちのために、わざわざこの夜中3時まで待てておられたわけですよ！自分たちの限界、弱さを認め、心からイエスキリストにへりくだって頼り求めるその時、もう自分の力ではなく、神の力に委ね切つて、頼り、求めるその時までイエスキリストは待てておられたのです。**

奇跡の場での興奮している状態が本当の信仰の姿ではなく、嵐の真ん中で、**今イエス様が見えず、一緒に船に乗っていらつしやらないような時にも、絶対信仰を持って、神の救いと助けを、御力を信じ求める、本物の信仰をちゃんと握らせるための主の目的があつたことが分かります！**

**‘まだ自信満々な自分たちの力で一度頑張つて出し切つてみなさい。自分たちの経験、知識、持っているすべてを全部使つて見ろ。口では、表では私を信じるとよく言うけど、どれほど自分の力で生きようとするあなたたちなのか。まだわたしを信じ切つてないの、自分たちの信仰がいったいどのぐらいなのか試して見て。’**

弟子たちがようやく、“神様、もうこれ以上はできません。お手上げです。イエス様、あなたを絶対信じまふ、あなたに頼るしかできません！どうかわたしを助け、救ってください！”その時間が“夜中3時ごろ”だつたわけでありまふ。

その真夜中にイエス様が弟子たちに現れまふ。**神様は我々の心すべてを読み取られ、見抜いておられるお方です。**

人生のこのような時、霊的に夜中の3時の時は、人生の中でいつでも体験する時でしよう。

**<4.信じて従っているうちに受ける苦しみは、決して不幸ではなく、かえつて神の御力を体験する時である！>**

**弟子たちはイエス様のおつしやる通りに御言葉に従ひ、ただ舟に乗つたのに、なぜ激しい嵐にあつて死にそうになるほど苦しんだのでしょうか。舟に乗っていた弟子たちは激しい苦しみの中で、イエス様をしばらく恨みながら、こう思つた弟子もいたかも知れまふん。**

‘イエスが促してくださらなかったら、この船に乗らなかったら、こんな大変な目にあうことはなかったのに！ どうして！’  
あっさりイエス様のお話に従わなければもっと良かったのではないのか’と。

実際、我々の周りにも、時々、イエスをしっかり信じて従っていたのにもかかわらず、思わぬさまざまな苦しみや試練を受ける場合があるでしょう。ちゃんとイエス様を信じて従って来たのに、物事がうまくいかず、かえってこんな大変な目にあうことなんて、なんでだろう？ イエス様どうして！ とみなさんは思ったことは今までなかったでしょうか。

イエス様をちゃんと信じるなら、御言葉通りちゃんと従うなら、必ず祝福されると聞いたのに、現実はそのでないことに神様を疑ったり、恨んだりしたことはなかったでしょうか。その時に、どう理解し、どう受け止めれば良いのでしょうか。

愛するみなさん！ このように考えて見ましょう。五つのパンと二匹の魚の奇跡で喜んでいていた12人の弟子たちの中でイエス様に“舟に乗って行きなさい。”と言われた時、みんなが従わず、半分の弟子たちだけ従って船に乗り、残り半分の弟子は従わず船を乗らなかったとしましょう。残り半分の弟子たちが、“イエス様、もう今日は疲れていやです。私は今ここがしばらく良いので、舟には乗りたくないし、乗れません。”と。それで半分6人の弟子たちだけが舟に乗ったのに、嵐に襲われ死にそうになったのに、船を乗らなかった半分の弟子たちはきっとこう思われるでしょう。‘あ、今回はイエス様に従わなくて良かった！ 不従順して良かった。そんなに苦しみに、会わなかったから！’と。まるで、船に乗らなかった弟子たちがもっと良かったように、幸せのように、正しかったかのように見えるかも知れません。

しかし、みなさん！ もし従わなかった弟子たちはいたなら、彼らには、**決定的に経験することが出来なかったことがあるでしょう。それは何でしょうか。それは嵐の中で、荒波も、自然さえも静まる創造主なる神の御子イエスキリストの御力ではないでしょうか。イエス様の弟子たちみんな、イエス様のお言葉に従ったため、しばらく激しい苦しみを受けなければならなかったのですが、**  
**だったからこそ、荒波をも静ませ、自分たちを救い、守って下さる神の御子イエスキリストの御力を直接経験することができるようになり、しっかり信仰を保つきっかけとなったのでは**ありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！ もしも、弟子たちが従わなかったならば、自分たちがもっと祝福されているように見えたかも知れません。例え、聖書通りに主日礼拝を守らず、ちゃんと聖書の御言葉通り、十分の一献金や献金生活をせず(マラキ書3章8-10)、自分の好き勝手に信仰の生活をしている人々がもっと金の余裕が出来、祝福されているように、もっと楽に生きているように見えませんか。むしろ、イエス様のお言葉通りに従ってちゃんと信じて、聖書の御言葉通り、信仰生活をしている人々がもっと、経済的に苦しく見えて、肉体的に大変そうに見える場合があるかも知れません。

しかし、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 我々が覚えるべきことはあまり従わないで、自分勝手に信仰の生活をされる方々は、**楽に教会には通っているように見えるかも知れませんが、一つ決して、実際に体験できない大切なことがあります！** **御言葉通りに従った時に約束され、なされ生きておられる神様の御力を実際経験することはできません。**

結局、イエスキリストの御言葉通り従わない人がいるなら、いくらイエス様の弟子であっても、いくら教会には通っていても生きておられる神様のまことの御力を実際経験することができなかつたため、突然の人生の耐えがたい嵐の前では一体どうすれば良いかわからず、しっかり信仰を立たせず、目の前に見えるものに捕らわれて、恐れ、不安で結局、激しく揺らいでしまったり、あきらめてしまおうとすることになるのではありませんか。

今日、いくら長年教会に通っても、自分よりイエスキリストを絶対信じられず、頼りきれず、自分の力で、生きたいままで歩もうとしている方々はいませんか。 わたくしは、今の真夜中の嵐の時を通る時であるならば、**真の神と出会い、生きておられる神の御力を、御助けを、御救いを体験できる時であります！** さらに本物の信仰を持ち、どんな時にも御言葉通りに従い、生きる者となるチャンスであるため、決して信じる者たちに不幸や、失敗ではないことを忘れないでください。むしろ、必ず、新たに神を体験することが出来る、素晴らしい神の御業を体験できる祝福につながるように導かれるチャンスなのです！

弟子たちは、心から本当にイエス様を神の御子として信じるきっかけとなりました。

「33舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼拝した。」

ですから、みなさん、今まで、これからも神様の御言葉通りに従ううちに思わぬ、受ける苦難や試練を受ける時は、決して不幸でも、失敗でもなく、むしろ、かならず、その時こそ、生きておられる神様の御力だけを実際経験出来るとともに、**我らにおいて下さるイエスキリストの真の慰めを受けことができますから、必ず神の祝福の通り道**であることを忘れず、今日の御言葉の約束で信じて下さい。本文の27節をイエス様が弟子たちに語って下さった御言葉を一緒に読んでみましょう。

「イエスはすぐに彼らに話しかけ、「**しっかりしなさい。(安心しなさい！) わたした。恐れることはない**」と言われた。」

イエスキリストは今もお、心から主に頼る者、信じて今日も神の救いを、主の御助けを求める我らに來られます！ そして、御言葉に従っているうちに、人生の小舟の中、真夜中嵐の中で苦しんでいる時に主がみんさん一人一人にも必ず神の慰めを語り、与えて下さると信じます。

「イエスはすぐにみなさんにも話しかけ、「**しっかりしなさい。(安心しなさい！) わたした。恐れることはない！**」と語ってくださいますように！ そしてついに、弟子たちをみんな目的の向こうの岸へ導き、無事着くようにして下さったように、私とみなさんをも、2024年この一年中に主がみなさんにおいてになられ、慰め、導いてくださいますように心からお祈り申し上げます！ アーメン！